

8

企業向けタブレットはブレイクするか？

活用目的の明確化で確実に浸透

iPadに続き、2011年はAndroidやWindows OSを採用したタブレット端末も企業の注目を集めそうだ。

「GALAXY Tab (NTTドコモ、サムスン製)や「DELL Streak (ソフトバンク、デル製)などコンシューマ向けの製品を企業が活用する一方で、業務用に特化したタブレットも登場する。代表例としては、仮想デスクトップやWeb会議その他のコラボレーションツールを利用するための端末としてシスコシステムズが投入する「Cisco Cius」がある。

タブレット端末の導入を成功裏に導くためには、何より活用目的の明確化が重要になる。先行するiPad導入事例では、接客・営業時のプレゼンテーション用途で一定の成果が出ているが、それ以外は未知数だ。

有望視されるのは、デスクトップ仮想化のクライアント端末としての利用

だ。デスクトップ仮想化とは、データセンターのサーバー内に仮想マシンを置き、ネットワーク経由で手元の端末に画面を転送・表示して使うもので「Desktop as a Service (DaaS : ダース)」とも呼ばれる。端末が異なっても(会社PCや自宅のPCなど)同じ環境でPCが使えるほか、複数人で端末を共用する場合にも適する。

このDaaSの“手元の端末”として、タブレットを活用しようという動きが進んでいる。入力・編集作業が軽微で、データ閲覧やコミュニケーションを主とする場面で、タブレットを活かそうという狙いだ。

顧客企業から「iPadやクラウド活用の相談が急激に増えた」というITRの甲元宏明シニア・アナリストは、「ワークスタイルを変革するには、タブレットとDaaSの組み合わせが有望」と話す。DaaSは、既存PCを単



Android OSを採用したシスコのタブレット「Cisco Cius」

に仮想PCに置き換えるだけではコストメリットが出にくい。だが、デスクトップPCとノートPCを使い分けるユーザーの端末を1台に集約したり、端末を共用化することでITコストをトータルに削減できる。必然、DaaS導入を機にワークスタイル変革にも踏み込む企業が増えている。

DaaSの導入例としてはソフトバンクが有名で、その他ICT投資に積極的な企業で先進事例が出てきている。また、シトリックス・システムズなどの仮想デスクトップ製品ベンダーもiPadやGALAXY Tabなどのタブレットへの対応を進めている。DaaSと絡めてタブレットが活躍するケースも増えるだろう。

9

通信事業者のクラウド事業の行方は？

IaaS/PaaS市場の本命はキャリア

仮想サーバーなどのITインフラをネットワーク経由で提供するIaaS (Infrastructure as a Service)市場は、すでに激しい価格競争が進んでいる。海外クラウド事業者も続々参入するこの市場でシェアトップを誇るのがNTTコミュニケーションズだ。

ITRが今年行った調査「ITR

Market View : クラウド・コンピューティング市場2010」によると、2009年度(金額ベース)の国内PaaS/IaaS市場のベンダーシェアで、NTTコムは34.4%を獲得。セールスフォース・ドットコムの10.3%、IBMの8.6%を大きく引き離している。ITRの甲元氏は、「価格競争が厳しく、中長期的なレン

ジで投資を行いながらストックビジネスを展開していくクラウド事業において、通信キャリアは非常に優利」と話す。サービス事業のノウハウを比べても、Slerとの差は圧倒的だ。

信頼度も強みとなる。ユーザー企業への意識調査では、アマゾンなどの海外ベンダーのクラウドサービスの認知度は非常に高いが、実際に利用する段階になると、やはり国内事業者、それもキャリアの信頼性が有利に働くようだ。